

埼玉版スーパー・シティプロジェクト推進補助金活用事業成果検証について（定量的指標）

成果検証実施年度 令和８年度

番号	補助事業者	補助事業名	事業概要	事業区分	成果指標	事業期間	従前値	目標値	実績値	達成度	達成できなかった理由・その他備考
1	秩父市	地域の交通や物流の結節点を核としたコンパクトかつ災害時にも強いまちづくり推進事業	山間地域での持続可能な物流モデルの構築のため、令和５年度に荷物の仕分け・保管場所兼事務室として仮整備を行った大滝振興会館の一部について、大滝地域の事業者が配送を担う拠点として本格運用する。	ハード	主要宅配事業者（複数事業者）における域内の１日あたりの物流トラック運行台数	R6	５台 （令和６年 ４月時点）	２台 （令和７年 ３月時点）	—	—	運用を進める中で、持続可能な物流モデルの構築のためには事業スキームを変更する必要性が生じたことから、当初設定した指標の検証が困難となった。令和７年度以降はラストワンマイル配送事業者を変更し、ドローンによる配送など新たな運行体制を構築して配送事業を実施している。
2	深谷市	深谷版スーパー・シティプロジェクト事業	深谷駅北口のシンボルロードである「レンガ通り」をレンガ舗装により延伸し、良好な歩行空間を確保するとともに、点字ブロックの整備等のバリアフリー化を行い、誰もが安全に歩行し、安心して居住できる環境を整備する。	ハード	全人口に対する居住誘導区域内に居住している人口の占める割合	R6	31.59% （令和４年 ３月時点）	31.59% （令和８年 ３月時点）	32.02% （令和８年 ３月時点）	A	
3	ふじみ野市	図書館機能強化のための大規模改修事業	コンパクトエリアに立地する上福岡図書館の大規模改修にあわせて、当該施設の魅力向上を図るとともに、住民のふれあいの場となる交流スペース等を整備し、賑わいの創出や地域コミュニティの醸成を図る。	ハード	上福岡図書館来館者数	R6	250,502 （令和４年 ３月時点）	263,027 （令和９年 ３月時点）	265,217 （令和８年 ３月時点）	A	成果指標を設定した際に、目標値の年度を令和８年３月時点で設定する必要があったが、令和９年３月と誤って設定していた。 実績値及び実績値の年度は成果検証を実施する年度としている。
4	白岡市	新白岡スーパー・シティプロジェクト	①イベントや意見交換会の実施などを通じて、エリアの価値を高める新白岡エリアマネジメント事業 ②未整備公有地を地域の団体等が活用できる賑わい拠点や地域住民が集い憩える場として整備する広場整備事業	①ソフト ②ハード	住民主体による賑わい創出のためのイベントの回数	R6	５回／年 （令和６年 ３月時点）	10回／年 （令和８年 ３月時点）	21回／年 （令和８年 ３月時点）	A	
			③指定避難所において災害時の電力確保を行う蓄電池配備事業	ソフト	指定避難所における蓄電池設置箇所数	R6	０か所 （令和６年 ３月時点）	１か所 （令和７年 ３月時点）	１か所 （令和７年 ３月時点）	A	

埼玉版スーパー・シティプロジェクト推進補助金活用事業成果検証について（定量的指標）

成果検証実施年度 令和８年度

番号	補助事業者	補助事業名	事業概要	事業区分	成果指標	事業期間	従前値	目標値	実績値	達成度	達成できなかった理由・その他備考
5	小川町	小川町版スーパー・シティプロジェクト	道の駅おがわまちに来訪した人々が小川町駅前周辺の中心市街地や旧上野台中学校（まちのキャンパス・U E C H U）等へ移動する手段として、環境に配慮した電動アシスト自転車や電動トゥクトゥクなどの電動軽車両を配置する。また、蓄電池を備えた自転車等の保管庫を整備し、隣接建物（管理棟）の太陽光パネルで作られた電気を蓄電し、各電動軽車両に電気を供給する。	ハード	道の駅おがわまち年間利用者数	R6	70,000人 （令和5年 3月時点）	418,000人 （令和8年 3月時点）	792,708人 （令和8年 5月時点）	A	当初は、令和7年4月にオープンする予定だったが、オープン日が令和7年5月末になったため、令和7年6月から令和8年5月までの1年間の利用者数を実績値としている。
6	宮代町	宮代版スーパー・シティ構想推進事業	東武動物公園駅から新しい村までのエリアの価値を高めるため、賑わいの拠点となるコミュニティセンター進修館において、駐車場の拡幅整備により、イベント時の活用や中心エリアの関係人口の増加を図る。	ハード	駐車場整備後においてイベントでの活用実施を年一回以上	R6	0回／年 （令和6年 4月時点）	1回／年 （令和8年 3月時点）	1回／年 （令和8年 3月時点）	A	
			農でつながるコミュニティエリアである新しい村において交流機能を高める施設改修の概略設計及びスマート農業技術の横展開を通じた農業従事者の維持・増加や農による活性化を図る。	ソフト	利用者等から改修要望の多い施設の改修設計達成50%以上	R6	0% （令和6年 4月時点）	50%以上 （令和7年 3月時点）	100% （令和7年 3月時点）	A	
					水管理のために現地へ行く回数の削減率30%以上（3回に2回程度）	R6	0% （令和6年 4月時点）	30%以上 （令和7年 3月時点）	38.7% （令和7年 3月時点）	A	

埼玉版スーパー・シティプロジェクト推進補助金活用事業成果検証について（定量的指標）

成果検証実施年度 令和８年度

番号	補助事業者	補助事業名	事業概要	事業区分	成果指標	事業期間	従前値	目標値	実績値	達成度	達成できなかった理由・その他備考
7	熊谷市	熊谷スマートシティ推進事業	市民や来訪者が夏の暑さの中でも快適に過ごせるよう、市公式LINEアプリの「まちなかの暑さを可視化したマップの表示」や、「暑さをしのぐための休憩スポット利用者へのコミュニティポイントの配布」作業を自動化し、取組の拡充を図る。	ソフト	R7における暑さ対策スマートパッケージ事業におけるクールシェアスポットの利用人数＝クマボ獲得人数	R7	1,901人 （令和7年 2月時点）	12,000人 （令和8年 3月時点）	7,068人 （令和8年 3月時点）	C	利用者の年齢層は50代を中心とする中高年層が多く、10代の利用がなかったなど若者層の利用が少なかったことが未達成の要因である。若年層への事業周知にはSNS等の活用が有効であるが、当市の現行の広報方針により、SNSでの事業通知ができないため、若年層への事業周知を検討する必要がある。 一方で、50代を中心とする中高年層では一定数の利用者があったものの、まだ利用していない市民がいる。これに対しては、市公式LINE「クマぶら」の属性別セグメント配信機能を活用し、中高年層の中で利用が少ない層への周知を行い、利用者増を図る。
			民間のシェアサイクルアプリと市公式LINEアプリを連携させ、シェアサイクルの利用者にはコミュニティポイントを配布するとともに、利用データを市の施策に活用する。	ソフト	シェアサイクル利用者の、利用データとクマぶらとの連携同意数	R7	0 （令和7年 2月時点）	100 （令和8年 3月時点）	143 （令和8年 3月時点）	A	
8	上尾市	上尾版スーパー・シティプロジェクト推進事業	地域拠点である公民館等に市健康ポイントアプリと連携する体組成計を設置。市民が歩いて拠点に集まる機会を増やし、健康の向上を目指すとともに、市民同士の交流を促進。ウォーカブルなまちづくりのきっかけにもつなげる。	ソフト	あげお健康ポイントアプリ「あげお健康+」の登録者数	R7	6,500人 （令和7年 1月時点）	8,000人 （令和8年 3月時点）	15,382人 （令和8年 3月時点）	A	
			公共交通の利便性向上のため市内循環バスを増便するとともに運行情報のオープンデータ化を行う。	ソフト	市内循環バスの乗客数	R7	令和5年度乗客数 444,000人 （令和6年 4月時点）	令和7年度乗客数 460,000人 （令和8年 5月時点）	—	—	物価高騰等により同一運賃での運行が困難となったため、運賃を1乗車100円から200円に値上げしたが、値上げ時期が事業実施と重なったため、当初設定した指標の検証が困難となった。 しかし、収益は増加しており、持続可能な運行体制を維持できているため、市民が引き続き利用しやすい運行環境が確保されている。

埼玉版スーパー・シティプロジェクト推進補助金活用事業成果検証について（定量的指標）

成果検証実施年度 令和８年度

番号	補助事業者	補助事業名	事業概要	事業区分	成果指標	事業期間	従前値	目標値	実績値	達成度	達成できなかった理由・その他備考
9	草加市	顔の見える経済循環とにぎわいづくり	地域資源を活用し、自発的に地域経営課題の解決に向けて動けるよう家守の育成	ソフト	家守育成プロジェクトを通した事業プラン提案割合	R7	0% （令和7年 4月時点）	50% （令和８年 3月時点）	100% （令和8年 3月時点）	A	
			マーケットを題材として、地域への能動的な関わり方を模索するワークショップ「マーケットの学校」の実施	ソフト	マーケットの学校参加者のうち、運営意欲を有する者の割合	R7	0% （令和7年 4月時点）	50% （令和８年 3月時点）	66.7% （令和8年 3月時点）	A	
			子育て世代でフルタイムを前提としない創業を目指す女性をターゲットとした創業支援講座「月３万円ビジネス」の実施	ソフト	月３万円ビジネス連続講座参加者のうち、創業した者の割合	R7	0% （令和7年 4月時点）	80% （令和８年 3月時点）	100% （令和8年 3月時点）	A	
10	入間市	入間市版スーパーシティ構想	藤沢地区センターにおいてEVシェアリングを実施するほか、新たに総合クリーンセンターにリユースEVを2台導入してバッテリーの耐用性等を検証することで、EVの普及促進を図る。また、災害時には市保有EVに可搬型外部給電器を搭載しEVが導入されていない地区センターへ派遣することで、地域の防災レジリエンス向上を図る。	ソフト	EV等を活用した災害対応訓練の実施会場数	R7	1会場／年 （令和7年 2月時点）	3会場／年 （令和8年 3月時点）	3会場／年 （令和8年 3月時点）	A	

埼玉版スーパー・シティプロジェクト推進補助金活用事業成果検証について（定性的指標）

成果検証実施年度 令和8年度

番号	補助事業者	補助事業名	事業概要	事業区分	成果指標	事業期間	従前	目標	実績	達成できなかった理由・その他備考
1	川越市	川越市駅周辺まちづくり事業	駅周辺の利便性と安全性を高めるとともに、地域の賑わいを創出するため、交通事業者など地域の関係者等の意見を反映した地域の将来像を示す「まちづくりビジョン」の策定を行うとともに、道路・駅前広場の整備による歩行者空間の充実などの駅周辺の都市基盤の整備に関する検討を行う。	ソフト	鉄道事業者、専門家、関係団体等の意見を取り入れたビジョンの策定	R7	庁内案としてのまちづくりビジョン案を作成しているが、関係者の意見はまだ反映していない。 （令和7年3月時点）	まちづくり懇談会により、まちづくりのビジョン案の将来像や取組方針等について関係者の意見を取り入れたまちづくりビジョンを策定する。 （令和8年3月時点）	目標とは異なるが必要な結果が得られた （令和8年3月時点）	関係者間の丁寧な合意形成が必要となったため、年度内のまちづくりビジョンの策定には至らなかったが、まちづくり懇談会等により、将来像や取組方針等について関係者の意見を反映したまちづくりビジョン（原案）を策定することができた。 なお、まちづくりビジョンはパブリックコメント等を経て、令和8年8月に公表予定である。
2	所沢市	歴史的建造物整備活用事業（基本設計）	国登録有形文化財「秋田家住宅」について、文化財としての建造物の価値を継承しながら、所沢のまちばの魅力を伝える体験活動や地域住民と来訪者の交流拠点として整備・活用するために基本設計を実施する。	ソフト	所沢市寿町歴史的建造物整備活用基本方針に沿った基本設計の実施	R7	秋田家住宅の保全及び地域の活性化に寄与する施設の活用に向けて基本設計が必要 （令和7年6月時点）	所沢市寿町歴史的建造物整備活用基本方針で位置付けた整備方針に基づいた基本設計の実施 （令和8年5月時点）	目標どおり （令和8年5月時点）	
3	上尾市	上尾版スーパー・シティプロジェクト推進事業	災害時・停電時の地域レジリエンス強化のため、市の中央拠点にあり、地域防災拠点でもある市役所本庁舎に太陽光発電設備等を設置するための設計業務を行う。	ソフト	市役所本庁舎太陽光発電設備の災害時における自立電源の活用方針(案)の決定。	R7	市の中心となる中央拠点にあり、防災地区拠点かつ防災中枢拠点でもある市役所本庁舎のレジリエンス向上のため、太陽光発電設備を設置するための設計を行う必要がある （令和7年1月時点）	市役所本庁舎に太陽光発電設備を設置するための設計により、災害時の自立電源の活用方針(案)を決定する （令和8年3月時点）	目標どおり （令和8年3月時点）	

埼玉版スーパー・シティプロジェクト推進補助金活用事業成果検証について（定性的指標）

成果検証実施年度 令和8年度

番号	補助事業者	補助事業名	事業概要	事業区分	成果指標	事業期間	従前	目標	実績	達成できなかった理由・その他備考
4	和光市	和光市版スーパーシティ構想	多世代の交流・ふれあいの場を創出する公共公益施設の整備に向け基本計画素案を作成する。	ソフト	公共公益施設整備に係る基本計画の策定	R7	多世代の交流ふれあいの場としての公共公益施設の整備方針が決まっていない （令和7年3月時点）	公共公益施設の具体的な用途・規模・運営方法を定めた基本計画を策定する （令和8年3月時点）	目標とは異なるが必要な結果が得られた （令和8年3月時点）	具体的な用途・規模・運営方法の確定にいたらなかったが、市民の声を反映した用途・規模・運営方法の方針を示す形で基本計画を策定・公表することができた。 市民の声等について、アンケート結果による10代意見の少なさを、個別の高校生アンケート・インタビュー等を実施することで補完し、民間ヒアリングも業種の異なる複数社からのサウンディング調査を実施する等で、十分な成果を得ることができた。
			市民参加型のワークショップで聴取した意見をもとに、駅前の魅力と安全性を向上させ、地域の賑わいづくりにつながる駅前広場の整備に向けた基本設計を行う。	ソフト	市民の意見を反映した駅前広場の基本設計の実施	R7	和光市駅北口駅前広場の整備に向けた基本設計が未着手である （令和7年3月時点）	令和6年度に実施した市民参加型ワークショップで出た公共空地の活用や歩道空間等に関する意見を反映した基本設計を行う （令和8年3月時点）	目標とは異なるが必要な結果が得られた （令和8年3月時点）	基本設計を進めるにあたり、基軸となる和光市駅のビジョンや北口駅前広場のコンセプトを市の背景や整備方針を整理して設定し、今後の実施設計などの素案を進めることが妥当と判断したため、当初の目標とは異なることとなった。 検討委員会を開催し、複数の学識経験者からの専門的な意見や、駅前広場を実際に活用する関係団体(交通事業者)の意見により、基本設計方針を確認できた。
5	八潮市	北部拠点まちづくり事業	北部拠点まちづくり推進地区において整備予定の道の駅について、「（仮称）道の駅やしお基本計画」の策定に向け、導入施設の内容・規模の検討や防災拠点機能の検討、関係機関や民間事業者を対象としたニーズ調査（アンケート、サウンディング等）を実施する。	ソフト	R8年度以降に着手予定の（仮称）道の駅やしお基本計画策定業務に向けた基礎資料の作成	R7	導入施設等の具体案について、効率的・効果的に検討を進めるために必要な情報や「道の駅」の利用者側と運営者側の両ニーズを把握する必要がある （令和7年2月時点）	R8年度以降に実施する基本計画策定業務を速やかに着手できるように、道の駅の整備に係る検討に必要な情報や課題等を関係機関との調整や市民アンケート調査等により整理する （令和8年3月時点）	目標どおり （令和8年3月時点）	
6	鶴ヶ島市	【鶴ヶ島駅周辺地区まちづくり】地域交流施設整備事業	新たな地域交流施設の整備に向け、地質に関するデータ収集や基本設計図書を作成、概略工事費の検討を行う。 同施設は、南市民センターを同地区内にある鶴ヶ島文化会館の敷地に移転し、地域住民の活動を支援するとともに、市民の憩い・交流・にぎわいの場を創出するため、施設の複合化による一体的な整備を行う。	ソフト	地域交流施設（南市民センター）の整備に向けた基本計画に沿った基本設計の実施	R7	地域住民にとって立ち寄りやすく、居心地のよい拠点施設の整備を行うため、市民の意見や要望を基に策定する基本計画に沿った設計を行う必要がある （令和7年2月時点）	基本計画で位置付けた整備方針①～⑤の基本設計図書への反映 ①学び・活動・交流がしやすい施設 ②誰もが安全に・安心して利用しやすい施設 ③開放的で居心地がよい施設 ④地域の賑わいを生み出す施設 ⑤多種多様な利用に対応できる柔軟性の高い施設 （令和8年5月時点）	目標どおり （令和8年5月時点）	

埼玉版スーパー・シティプロジェクト推進補助金活用事業成果検証について（定性的指標）

成果検証実施年度 令和８年度

番号	補助事業者	補助事業名	事業概要	事業区分	成果指標	事業期間	従前	目標	実績	達成できなかった理由・その他備考
7	上里町	駅北東通り線沿道開発等検討業務	神保原駅北東通り線の新設に合わせた新市街地の形成に向けて、沿道への開発事業者の進出を目指し、駅北東通り線沿線の現状分析、土地利用計画案の作成、概算事業費の算出等を行い、開発事業者から駅北東通り線沿線の市場性、開発可能性、進出条件等の意見聴取を行う。	ソフト	駅北東通り線沿道開発に向けた開発事業者からの意見聴取	R7	沿道開発を進めるには、開発事業者の進出が重要なため、開発事業者の意見を把握する必要がある （令和7年4月時点）	開発事業者から沿道の市場性、開発の可能性、進出条件等を聴取し、内容を整理する （令和8年3月時点）	目標どおり （令和8年3月時点）	